

# 山下耕平 個展

Kohei Yamashita Solo Exhibition

## SLAB

2024.11.16 (土)

—12.14 (土)



TEZUKAYAMA GALLERY | MAIN GALLERY

このたび、テヅカヤマギャラリーでは11月16日より山下耕平の個展「SLAB」を開催いたします。

1983年、茨城県に生まれた山下は現在まで京都を主な拠点とし、活動をしているアーティストです。京都市立芸術大学大学院造形構想専攻在学中より、「遠近」や「現在位置」といった距離感覚を作品の一つのテーマとし、絵画、彫刻、写真、インスタレーションなど、メディウムにとらわれない様々な作品を制作してきました。また、自らが登山という行為を通して得た記憶や体験などの身体感覚を記号的に作品に取り入れる点で一貫した特徴があげられます。

約7年振りとなる今展では、ここ数年の間に山下が関心を抱くようになったという「醜さ」をテーマに制作した新作を中心にをご紹介します。「美しさ」の探求は長い歴史においても藝術の理想とされてきましたが、「醜さ」とは単に美の対極として定義されるものなのでしょうか。これまで山という測りきれないスケールの自然美と対峙し、作品へと転換してきた山下の活動を省みた時に「醜さ」というテーマはやや唐突に映るかもしれません。しかし、「醜さ」について思索するという事は、私たちが抱える偏見や畏怖の感情といった内面性、あるいは社会の中で排除されがちな存在に目を向ける事と同義であり、逆説的な視点を通して「醜美」といった価値観を超えた先にある「何か」を探ろうとしていると捉える事が出来ます。

是非、ぜひこの機会にご高覧賜りますようお願い申し上げます。

僕は怒っている。何かに対して、というわけでもなく、ただ漠然と怒っている。僕の置かれている状況に、なのか。はたまた世界に。政治に。隣人になのかはわからない。動くのもままならない狭いアトリエの中で、ひとり、作品に囲まれながら発狂している。ただ、コロナ禍以前からここ数年間、なんとも言いようのない怒りが僕を動かしていることは確かだ。

映画『インターステラー』の中で登場するブランド教授は、“Rage, rage against the dying of the light.”（消えゆく光に向かって、怒れ、怒れ。）と、ディラン・トマス『穏やかな夜に身を任せな』の一節を繰り返し引用している。僕は“Rage, rage, rage.”と一つ多く加えて（つまりところ記憶違いをしていたことになるのだが）、呪文のごとく唱えて暮らしている。

2024年はケンドリック・ラマーとドレイクによるビーフの応酬が、米国を中心に異常な盛り上がりを見せた。ラッパー同士のディスリあい妙な連帯感や断絶を孕みつつ、熱気と、不満や怒りなど負の感情が鷲のように醜く絡まり合いながら名曲が産み出されていく様子を遠くから目撃した。

近頃僕は「醜いとは何か。」ということを考えている。美しいものと醜いものの違いがわからなくなってきたと表現する方が正しいのかもしれない。たとえば嘔吐、吐き気、錆汁、雑草、鉄屑。

ぼんやりと、黒い塊のディーゼル車が記憶から蘇る。それはおそらく実家で暮らしていた頃に乗っていたマツダ社製のボンゴワゴンだ。たぶん暖色系のラインが描かれていたであろう鉄の重たい自動車が、僕の頭の中でゆっくりと大きく揺れている。

福岡道雄が「何もすることがない」と文字通り刻印した事実が、僕の奥深くに着地し、消えることなく定着し、じわじわと増殖し、いつのまにか「何もつくることができない」という言葉に変容していることにも戸惑っている。

まともになく支離滅裂であることを自覚しつつ、今、テキストを書いている。しかし、点と点が繋がることを僕は期待をしていない。僕はご都合主義には期待していない。僕にできることは、すでに在るなにかを並べることしか残っていないのかもしれない。知らないうちに垢のように堆積し、やっと表面化するような代物を並べることしか。

個展タイトルにある「SLAB」とは、厚板であり、石板であり、遺体安置台、缶ビール24本入りケースを意味する語である。気付かれず捨てられそうになりながら、隠され、騙されたりしながらも、しがみ付いた残滓のような平板を僕は今作っている。

□ 作家略歴 | Biography

## 山下耕平 | Kohei Yamashita

滋賀県在住

- 1983 茨城県に生まれる
- 2008 京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻卒業
- 2010 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻造形構想修了

### 主な個展

- 2019 「Remember Something」 | MEDIA SHOP gallery2, 京都
- 2017 「WOODS」 | TEZUKAYAMA GALLERY  
ALLNIGHT HAPS 2016後期「私がしゃべりすぎるから／私がしゃべりすぎないために」 | HAPS, 京都
- 2013 「ヒュッテにて」 | TEZUKAYAMA GALLERY, 大阪
- 2010 「Traverse」 | TEZUKAYAMA GALLERY, 大阪
- 2009 「lost」 | 谷門美術, 東京  
「ケルン・現在位置」 | INAXギャラリー2, 東京
- 2008 「Cairn-集積と形成-」 | ギャラリーメゾンダール, 大阪

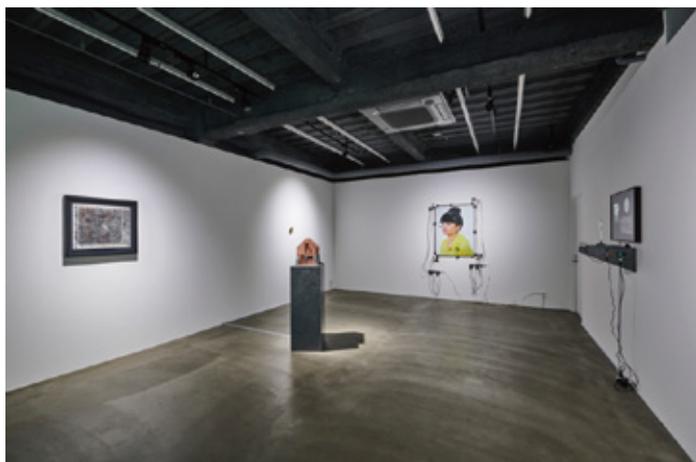
### 主なグループ展

- 2024 DELTA Exhibition 「Parallel Process」 | アートカビーフンか白厨, 東京
- 2023 「Tatsuno Art Project: Góra. Zachwyty i groza」 | 日本美術・技術博物館マンガ, ポーランド (クラクフ)
- 2022 厚地朋子+山下耕平「New Intimacies / ニュー・インティマシー-WILD WILD WEST-」 | Gallery PARC, 京都  
「中景: Act III『岩は木のことを知らなかった。』」 | TEZUKAYAMA GALLERY, 大阪 / LEESAYA, 東京
- 2021 「たつのアートシーン2021」 | めの劇場, 兵庫  
「山怪～異世界への憧れと畏れ」 | 瑞雲庵, 京都  
「Kyoto Art for Tomorrow 2021-京都府新鋭選抜展-」 | 京都文化博物館, 京都
- 2019 「継ぎ接ぎ」 | TEZUKAYAMA GALLERY, 大阪
- 2018 「Combinatorics」 | MEDIA SHOP, 京都
- 2016 「中景 -The Glory (of phenomenon): Act II-」 | HOTEL ANTEROOM KYOTO, 京都
- 2015 山下耕平+須賀悠介「The Glory (of phenomenon): Act I」 | TEZUKAYAMA GALLERY, 大阪  
「See SawとK氏のコレクション」 | see saw gallery, 愛知  
「辺集」 | MEDIA SHOP, 京都
- 2013 「わたしたちは粒であると同時に波のよう」 | @KCUA, 京都  
「TSCA Rough Consensus」 | HOTEL ANTEROOM KYOTO, 京都  
厚地朋子+山下耕平「近所の迷子」 | taïmatz, 東京
- 2012 「OUR HIDDEN PLACES」 | a・room, 京都  
「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2012」 | 松代 木和田原地区, 新潟  
「隠喩としての宇宙」 | HOTEL ANTEROOM KYOTO / タカ・イシイギャラリー京都, 京都  
「Views of Life」 | hpgrp GALLERY NEW YORK, アメリカ
- 2011 「萬福寺芸術祭 -EN-」 | 黄檗宗大本山萬福寺, 京都  
「DONATIONS!!!～東日本大震災被災地のために～」 | GURA, 京都

□ 作品 | Artworks



L O S T / 2024 / 木枠、キャンバス、ジェッソ、シール、アクリル絵具など / H595 × W840 × D25 mm



Installation view of Solo Exhibition 'WOODS' at TEZUKAYAMA GALLERY (2017)



Installation view of Group Exhibition '山怪～異世界への憧れと畏れ' at 瑞雲庵 (2021)

□ 展覧会情報 | Exhibition Information

山下耕平 | Kohei Yamashita

S L A B

2024.11.16 [Sat] - 12.14 [Sat]

営業時間: 火 - 土 12:00 - 19:00 | 休廊日: 日曜日・月曜日・祝日  
 OPEN: Tue - Sat 12:00 - 19:00 | CLOSED: Sunday, Monday and Holiday  
 お問い合わせ: info@tezukayama-g.com / 岡田 (TEZUKAYAMA GALLERY)

〒550-0015 大阪市西区南堀江1-19-27山崎ビル2F  
 Yamazaki Bldg. 2F, 1-19-27 Minami-Horie, Nishi-ku, Osaka, 550-0015 JAPAN  
 t: +81 6 6534 3993 | e: info@tezukayama-g.com

